



3年生クラスマッチ IN さんさん公園!!

3年生クラスマッチを、12月15日、さんさん公園で開催しました。今年は、本校グラウンドで行っていた昨年と異なり、体育委員の生徒が企画・運営し、さんさん公園で開催。当日、学校で出発式を終えた後、生徒たちは遠足気分を味わいながら徒歩で移動し、話し合いで決めた競技「ドッチボール&しっぽ取り」を楽しみました。1日を終え、生徒も先生たちも大きな達成感とほどよい疲労感に浸りました。体育委員長の出口将吾さんは、「修学旅行など実施できなかった学校行事はあったけど、それと同じくらいの思い出を日々の生活の中で創ってきました。クラスマッチもその一つになり、よかったです。」と感想を話しました。



3年生クラスマッチ

「人間は尊敬すべきものだ!」 ～「水平社宣言」から100年目の3月3日～

1 水平社宣言とはどんなもの?

差別に苦しむ当事者自身が声をあげ、社会を変える運動を立ち上げ、どのような視点で差別をなくそうとするかをまとめたのが「水平社宣言」です。この宣言は、100年前の1922年(大正11年)3月3日の全国水平社創立大会の時に発表されました。基本的人権の尊重や法の下での平等がうたわれる日本国憲法より20年以上前に、人間の尊厳や人権のとらえかたを社会に提起していた「水平社宣言」は、日本初の人権宣言と言われています。またフランス人権宣言、世界人権宣言に匹敵するとも言われています。町の小中学生が使用している教科書にも掲載されており、子どもたちは「人間は尊敬すべきものだ!」というこの宣言をしっかりと学んでいます。



水平社宣言記念碑(奈良県御所市柏原)

2 100年の節目を迎えて考えたいこと

我が国には、ハンセン病問題や水俣病問題、「障害」者問題、外国人問題などの解決すべき人権問題があります。この「水平社宣言」の理念と全国水平社の差別をなくす運動はこれら被差別マイノリティ(少数者)の自覚と運動に勇気と刺激をもたらしました。ハンセン病家族訴訟原告団長であった林力さんは著書「差別認識の序章」で「部落差別に目を覚ますということは、覚めるということは、さまざまな差別が見えてくることでもあるわけで、部落の大衆が闘っていくという姿というものに触発されて父親のことを語りかけることができたと思います。」と記載しています。また、教科書の無償制度や奨学金制度、生活困窮者救済制度、身元調査規制、世界のマイノリティの自由を求める運動などの国内外の人権の確立や民主主義の発展に寄与することにもこの「水平社宣言」の精神が大きく関わっています。100年の節目に当たり、そして、新たな100年に向けて「水平社宣言」の思いを見つめ直してみませんか。

「『おれはかきをとってないぞ』を学習して」 菊陽南小学校 3年 土田 史



校内人権集会
「みなみっ子集会」のようす

わたしは、友だちから決めつけをされたとき、自分の気持ちを伝えることができませんでした。なぜなら、「わたしじゃないよ」と本当のことを伝えても、どうせ何も変わらない、ずっと決めつけられるんだろうと思ったからです。しかし、今振り返って考えてみると、自分も友だちと同じように、その人に対して決めつけをしていたことに気がきました。もしも、本当のことをしっかり伝えていたら、わたしのことを信じてくれたかもしれません。そのことに気付かず、相手のことを信じるができず、自分も決めつけをしてしまいました。だから、これからは、勝手

な決めつけをせず、一度、自分の気持ちを伝えてみるとよいことを、今年の人けん学習で学ぶことができました。また、もし伝えることがこわいときには、友だちといっしょに伝えれば、自しんをもって伝えられることがわかりました。

人けん学習を終えて、みんながよりよい生活をおくるために、自分たちにできることは何だろうと考えました。わたしは、みんなが安心してすごすことができる教室をつくりたいです。そのために、ふわふわ言葉でいっぱい学校をつくっていききたいとあらためて思いました。

(先生より)

友だちから決めつけをされたときに、自分も同じようなことをしていることに気がきました。自分の思いを伝えることや、ふわふわ言葉を使って、みんなが安心して過ごせる学校をつくってほしいと思います。

短歌会

菊陽句会報

きくよう文芸

大霜の朝の静寂や気を正す	紫藤 祥子	しんしんとコロナも連れて去年今年	財津 早雪
茫洋と阿蘇の山脈初明り	曾我 育代	初暦まず通院日記しをり	原野レイ子
晦日蕎麦手作りなればしこしこと	曾我トモ子	年の瀬や疫病去らず日は過ぎぬ	寺尾千代子
風花や病身椅子に待合所	緒方チエ子	出揃ひし麦の芽揺らす山の風	高橋 孝子
マスクして目だけの美人オミクロン	米山ルミ子	老い得たり道の一筋冬すみれ	田中 郁子
都会とは夜も賑やかクリスマス	吉田 幸子	初雀群飛ぶ空の青きこと	北川しんじ
水甕の魚影動かぬ寒の入り	木村 信子	三十三才枝移りして声を張る	佐藤 澄世
天頂に月暈明く架かるとき次なる夢に戻りゆかむか			有久 賢治
豊作の緑を担ぎて元日の晴天無風に種を播きたり			梅田 國雄
赤々と落ち葉焚きし日を子等知らず消ゆる冬日の語りぐさなり			佐藤せい子
新年の片付け終えて玄関の古いこけしのお顔を拭きぬ			田中 成美
阿蘇嶺に初日の光昇りきて空はたちまち輝き始む			中村トシエ
まだ明けぬ西の空には煌々と月は浮かびて裸木照らす			馬場 礼子
三色の光の灯るモミの木に真白きわたを飾りましょう			松本 東亜